

清政

神道政治連盟京都府本部会報
平成16年12月3日発行(年2回発行)



御製
激しかりし
戦場の跡
眺むれば
平らけき海
その果てに見ゆ



日本を取り巻く憂うべき情勢
日露戦争について
沖縄慰霊旅行
おがたまの木コンサート
事務局からの活動報告
天皇皇后両陛下御奉迎

37

「日本を取り巻く 憂うべき情勢」



神道政治連盟京都府本部
副本部長 竹内幸平

日本を取巻く東アジアの情勢は厳しいものがある。北朝鮮の核による威嚇、中国・韓国に於ける反日運動は、日本を仮想敵国として包囲するかの如くである。日本は正に存亡の危機に直面している。

アメリカのブッシュ大統領は平成十四年(二〇〇二)一月に一般教書演説の際、北朝鮮を、核開発を続ける悪の枢軸と名指して批判した。北朝鮮は、大量破壊兵器保有国・テロ国家・人権抑圧国家であるとのアメリカからの圧力や、日本の拉致被害者家族達の努力によりついに日本人拉致を認め、被害者及びその家族を日

本に帰してきた。このテロ国家である北朝鮮が今や核を保有しようとしている。こともあるうにこの国家と国交正常化を図ろうとするのが小泉首相である。これは断固として反対せねばならない。我々は北朝鮮の大量破壊兵器から日本を守ることに延長線に、自衛隊のイラク派遣があることを認識すべきである。そのためには日米同盟を堅持することを忘れてはならない。アメリカの対決姿勢があつてこそ北朝鮮は窮しているのである。決して北朝鮮による日本とアメリカの分断政策に嵌ってはならない、北朝鮮の現政権打倒という強い姿勢で対決すべきである。

朝鮮戦争で共に血を流し共に戦った中国は、石油や食料の支援を通じて北朝鮮との絆を保っている。この中国の朝鮮半島への影響は不気味である。今日の中国の繁栄は、天安門事件以後の愛国主義教育の徹底、自国民の弾圧による結果の上にある。その国内状況は農業の荒廃、貧富差の拡大、そして幹部の腐敗が進み危機的であるといつてよい。農民からの収奪、外資依存、資源開発による環

今という
6
時

Reflect
the times

日露戦争について

東京 乃木神社

宮司 高山 亨

境破壊等がさらに拍車をかけ、国内は一触即発の状態のようだ。これら国内問題を他へ逸らすために反日運動を軍主導で推進しているのである。また中国は、アメリカが中東に目を向けている隙に、東シナ海への海洋進出を活発化し、海洋利権を握ろうと躍起になっている。このことは経済膨張を背景として大陸棚資源の獲得であり、東シナ海・西太平洋への領土拡大が目的であろう。我が国は中国に対し歴史認識の相違であることを明確に主張し、反日運動に対処すべきだ。さらには排他的経済水域での海洋調査に対しては強く抗議を繰返すべきだと思う。

また韓国では、北朝鮮工作員の活動や中国の影響により、親北親中派と保守派とが国を二分して激しく争っている。韓国が朝鮮半島の安全保障に欠かせないだけに、日本も傍観することはできない。親北親中派が指示を拡大する中、それらが軍備を拡大し一層北に傾くことになれば、北朝鮮・中国には追い風となり、日本は三国に包囲され、存亡の危機に立たされる。アメリカも東アジアの防衛から手を引かないとは限らない。そうなれば日本は全く孤立する。今や我が国は、台湾・韓国保守派と利害得失を越え連帯し、中国からの朝鮮半島への影響や海洋利権侵害の阻止、そして北朝鮮からの大量破壊兵器の脅威等を取除くべく共同して対処すべきである。そして小泉首相には東アジアの背景を的確に見極

め、その場的な外交政策ではなく、道義・信念を貫く強い姿勢を持って、国家存亡の危機にある憂うべき現状を脱する的確な方策を示して欲しい。



入会受付中!!

神道政治連盟京都府本部では、新規会員を募集しています。

・正会員 年会費2,000円 (運営費を含む)

・有効会員 年会費3,000円 (運営費を含む)

神道政治連盟京都府本部事務局までお問い合わせください。

電話 075-863-6677

FAX 075-863-6664

電子メール info@kyoto-jinjacho.or.jp





日露戦争 百年の節目にあたって

今という時

天佑ヲ保有シ、萬世
一系ノ皇祚ヲ踐メル
大日本帝國皇帝ハ、
忠實勇武ナル汝有衆
ニ示ス。

朕、茲ニ露國ニ對シ
テ戰ヲ宣ス。．．．

明治三十七年二月

十日「露國ニ對スル
宣戰布告ノ詔」が換

発されてより、平成十六年は丁度
満百年、そして平成十七年は日露
戦勝百年の記念の年に当たります。

残念乍ら、現在中高生の使用す
る歴史教科書は、戦後の反戦平和
の風潮、更に左翼反日史観の横行
により、日露戦争の「真実」を歪
めた侵略戦争史観となつてしまつ
ているのが現状であります。この
自虐的世相の現今、日露戦争のも
つ我国近現代史に於ける真の意味、

又、アジア諸国に与えた影響、更
に世界史的意義を、この百年とい
う節目の年に鮮明にすることは、
海に大切なことと考えております。
では当時、何故ロシアと戦わざ
るを得なかつたのか、そして何故
大ロシアに勝ち得たのか、更に
この戦勝が日本及びアジア、世界
に何をもたらしたのかということ
を検証してみたいと思います。

先ず第一点は、当時西洋白人諸
国がアジアに向けて、その勢力を
伸張し、力づくで版図を拡大せん
とする中、かろうじて独立を保ち
得ていたのは、日本以外では清国、
タイ国位という状況にあつて、大
ロシアは満州、朝鮮半島に進出、
軍事的圧迫、所謂西力東漸の大勢
を加えつつありました。その渦中
に在つて、我国の自主独立、国家
主権の維持の爲には、開戦以外の
道は残されていなかつたのが真実
であります。

次に第二点の何故大ロシア
(国土十六倍、人口三倍、国家予算八
倍)に勝利し得たのか。それは、明
治維新以来の科学力があつたこと、
更に外交力があつたこと等を含め、
国家としての総合力があつたとい

うことでありますが、最も大事な
ことは、当時幸いにして世界に比
類無き英明高徳の君主明治天皇を
上に戴き、下には輔弼の任に当た
る忠義の臣達があり、更にそれを
支える廣く堅固な基盤としての勤
勉且つ廉直な国民精神があつたか
らであります。

第三点は、ロシアの脅威を除く
ことにより、日本の独立が確保で
きたこと。又、長年の念願たる不
平等条約の改正が最終的に達成さ
れたこと、更にアジア史に見れ
ば、有色人種に大きな勇気を与え、
且つ「白人絶対の時代」に区切り
をつけ、コロンブス以来四百年ぶ
りに、世界の歴史を変え、有色人
種が白人の言いなりになる時代に
終止符を打つたことでもあります。

世界秩序の安寧を願い 歴史を顧みる

今という時

以上三点について
述べてきましたが、
日露戦争の現代的意
義について、先般平
成十六年九月十三日
の乃木神社例祭に於
いて奏上された小堀
桂一郎中央乃木会々
長の祈願詞の一部を

紹介いたします。

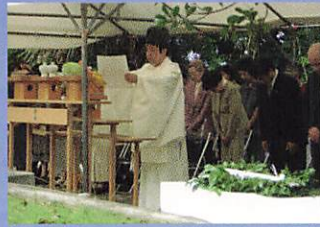
「前略．．．世界に知られた水
師營での歴史的な会見に際し、畏
くも、明治天皇直々の御配慮に添
つて示現されたものである、旅順
守備軍の総帥ステッセル將軍への
正に騎士道的なる鄭重な處遇は世
界の感嘆を喚び起しました。これ
こそが文明の風儀なるものの実践
でした。．．．中略．．．このことが
海に重要であります。今の世界に
於いて、人間の生存の条件である
秩序の安寧と理性の正常な機能と
を保障し得るものは、依然として
力であります。但し、凡そ力とい
ふものが、そのあるべき様を實現
するためには、人から畏怖される
のみならず、尊敬をも受ける様な
ものでなくてはなりません。この
道理こそは、明治の聖代が私共後
世の徒に遺し置かれた最も重要な
教の一であります。．．．後略」
怨念の連鎖が続く世界各地の紛
争を眼のあたりにし、光輝ある明
治の先人達を振り返りつつ、迫り
来たる難局に立ち向かいたいもの
であります。

沖縄・京都の塔

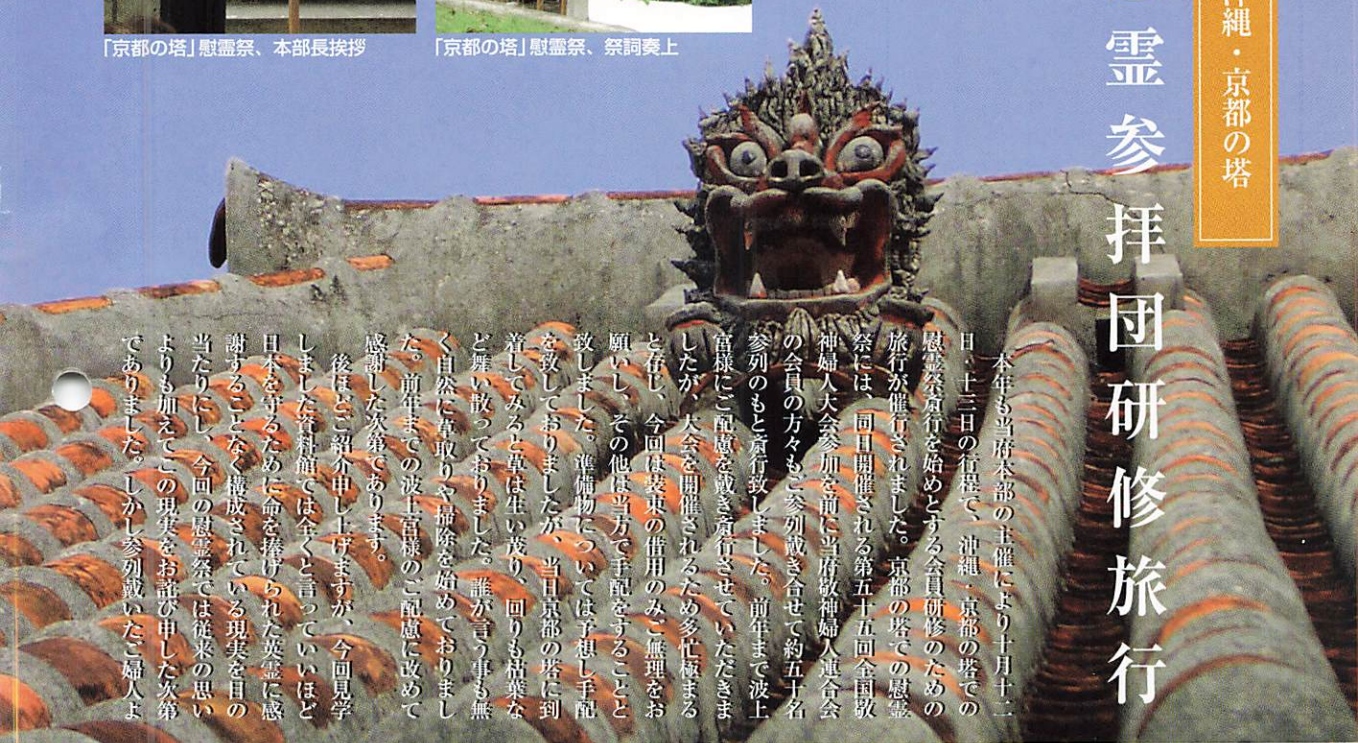
慰霊参拝団研修旅行



「京都の塔」慰霊祭、本部長挨拶



「京都の塔」慰霊祭、祭詞奏上



本年も当府本部の主催により十月十二日、十三日の行程で、沖縄・京都の塔での慰霊祭実行を始めとする会員研修のための旅行が催行されました。京都の塔での慰霊祭には、同日開催される第五十五回全国敬神婦人大会参加を前に当府敬神婦人連合会の会員の方々もご参列戴き合せて約五十名参列のもと実行致しました。前年まで波上宮様にご配慮を戴き実行させていただきましたが、大会を開催されるため多忙極まると存じ、今回は波東の借用のみご無理をお願いし、その他は当方で手配をすることと致しました。準備物については予想し手配を致しておりましたが、当日京都の塔に到着してみると草は生い茂り、回りも枯葉など舞い散っておりまして、誰が言う事も無く自然に草取りや掃除を始めておりました。前年までの波上宮様のご配慮に改めて感謝した次第であります。

後ほどご紹介申し上げますが、今回見学しました資料館では全くと言っていいほど日本を守るために命を捧げられた英霊に感謝することなく構成されている現実を目の当たりにし、今回の慰霊祭では従来の思いよりも加えてこの現実をお詫び申した次第でありました。しかし参列戴いたご婦人よ



「京都の塔」慰霊祭、京都府神社庁長拝礼

り「身内がさきの戦争で亡くなっているから今回来れてよかった。それも慰霊祭までして戴いて」と仰っていただき心が救われた思いでありました。

さて、旅行の報告ですが、両日好天に恵まれ、初めて訪れる場所、何度も見学した施設、それぞれの参加者が違った立場で様々な想いを深められたことと拝します。私も琉球王国最高の聖地である「斎場御嶽」を見学したのは初めてでしたが、そのスケールの大きさには圧倒され、信仰の原点を垣間見られたと思っております。慰霊祭の齋行という第一の目的以外にも、多くの学ぶべきことが得られた、充実した研修旅行であったことを、まず以てご報告しておきます。

昨年一昨年は、慰霊祭以外の研修日程のポイントを、米軍基地の視察・見学に絞って行いました。今年は前述の、世界遺産に登録された祭祀遺蹟や城郭遺蹟を始め、戦跡・慰霊施設・戦争資料館といった要素の入り交じった多くの場所を巡ったので、それらの見学を詳細に報告する字数はありません。ただ今回、平和祈念公園の「平和祈念資料館」と「ひめゆり平和祈念資料館」、そしてまだ開館して間もない「対馬丸記念

館」の三つの館園施設を見学して、記憶に留めておきたい感慨がありました。それを文字にして、報告に代えさせて頂ければと思います。

それは一言で申し上げると、私たちの「慰霊の真心」と館の表現する「反戦の願い」というものの間には、究極の目的に向けての方向性はともかくとして、進行する軸のずれによって軋轢があり、擦過傷も生じているということとです。戦争という行為を愚かしいものと認識し、それを枷として平和を望むためには、日本人は一度究極の極悪人と評価されねばならない。日本が犯罪国家であったと認めないところから、平和は生まれてはこないという信念のもとに、館の全ての展示が構成されています。

日本で唯一地上戦が展開され、軍民混在した中で自軍による残酷な行為が横行した地。致し方がないとも思いますが、それで全てをそのままにしておくことはできません。

対馬丸（昭和十九年八月、那覇市の八つの国民学校生徒を始め、県内各地から集まった一般疎開者一六六一名、及び船員・兵員合計一七八八名を乗せて長崎へ航行中、米潜水艦ボーフィン号に攻撃を受



慰霊参拝団（於 平和祈念堂）



■平和祈念公園内「沖縄平和祈念資料館」



■沖縄平和祈念堂にて献花



■真新しい「対馬丸記念館」



■改装になった「ひめゆり平和祈念資料館」



■「ひめゆりの塔」



■琉球開闢の聖地「斎場御獄」(世界文化遺産)より、神の島・久高島を遙拝



■団員一同、「京都の塔」の草とりを奉仕



■「京都の塔」慰霊祭、京都府敬神婦人連合会代表拝礼

け沈没。乗員の内、約八割が犠牲に。)の記念館では、館を訪れた子供の書き残した感想が、更に「展示品」として扱われておりました。残された遺品や生前の愛用品などの収集が困難で、展示のための資料(もの)が極めて少なく、生存者の証言や情況を記録した、いわゆる言葉や文字による展示が多いことを余儀なくされているからです。企画展示コーナーとして自筆の原稿が部屋に張り出されたところもありましたが、選ばれたものとして壁面に印刷され、当面は掲示され続ける展示物としての一角に、次の言葉が記されていました。

「・・・多くの一般の民間人が、関係のない戦争で命を失い・・・」

私は戦後生まれですが、その戦争は、私たちの戦争であったと思っています。一般

の人であっても、民間人であっても、日本の国民であれば「我が国の戦争」と認識すべきだと思います。それが小さな子供の書いたものであれば、「日本人に関係のない戦争ではなかったんだよ」と教えないといけない、そう考えます。

沖縄は、平和教育のプロバガンダ的存在であり、沖縄での平和教育に対して意見を述べることは、自らの首を絞めることになりかねません。しかし最後に記しました対馬丸記念館での展示文などは、行き過ぎた平和教育と誤った個人主義の理念が、歪んだ人格の上で一体化しているのが窺え、嫌な気分にならざるを得ませんでした。

ひめゆり平和祈念資料館は、多くの方が再訪・再々訪だったようですが、本年の四月に全面的な展示改装が行われておりまし

た。その理由については、「戦争体験者が年々少なくなっていく中、若い世代に戦争の実態をより分かりやすく伝えるために」行い、「さらに平和への思いを未来へつないでいくための『平和への広場』を増築いたしました。」と説明されています。

明年は戦後六十年を数える節目の年になり、平和教育の拠点となる施設の多くが世代交代を乗り越えて、個人主義の沼の淀んだ水面に浮かぶ、張子の月のような平和を受け継ぐ活動を展開することでしょう。私たちも、私たちの考える平和を、平和のための活動を、より多くの次の世代が受け継いでくれるよう活動を重ねなければならぬと、刻苦勉勵の思いを新たにしたい研修旅行でした。

おがたまの木コンサート



出演/マリオネット
ポルトガルギター&マンドリン

とき 平成16年 7月11日(日)
ところ 京都文化博物館 別館ホール
主催 京都の躰を語る女性の会

講演とコンサートで、教育正常化をめざす
「おがたまの木コンサート」が開催されました。
そのレポートをご紹介します。

招霊木おがたまの木の下でひとひとりどりが思いのままにひとときを楽しむ。そんな心に優しい癒しの講演&コンサートが時代の匂いが薫る京都文化博物館の別館ホールを舞台に幕を開けた。

第一回目になるこの企画も、今回は映画「男はつらいよ」の寅さんを通して、「確かな世界へ帰っていく物語」と題し、人と人の「失われた絆」の大切さをわかり易く語りかけて下さる橋本雅之先生と、昨年に引き続き、日本のポルトガルギターのバイオニア、マリオネットのお二人のコラボレーション。聞いて聴いて、そして考える・・・教育正常化を目指すためのアプローチとしては、時代の流れに素直な新しい切り口ではないであろうか。

今も多くの人に愛され続けている「男はつらいよ」。初作品よりなんと四十八作。何故こうまで人の心を捉えて放さないのか?それを受取る人の立場は様々だ。

橋本先生は日本の神話や物語の文脈における視点でその答えを見出された。作品の中に私たちを「安心」

へと導いてくれる「確かな世界」が存在するという。

寅次郎の葛飾柴又への存在根拠の拘り、旅立ちと帰還を繰返す回帰性。帝釈天を背景とする宗教性、登場女性に対する神聖性。寅次郎はユング心理学にも通じる男女の深層心理に横たわる内面の「母性」の発見をする。これら全てが日本の神話と響きあう。寅次郎はそれらを落り抜け試練を克服、やがてスクリーンの中から日本を導く「神」に近い存在となり姿を消す。しかしとりわけ大切なのは終始舞台となっている下町の人々の生活の中の連帯感である。現代社会で失われつつある「世界観」そのものが其処にはある。言い換えれば日本人が嘗て当たり前のように持ち、育んで来た日本人らしい秩序、習慣を物語の中に見いだす事ができる。寅次郎はそんな土壌から生れて来たのだ。それが我々の共感を生み、この映画が愛され続けている理由だと感じる。

この橋本先生の講演は、寅次郎の神格化はともかく、我々が心の中に確かに持ち続けている「日本固有の

確かな世界」にある価値観や倫理観を確実に掘り起し、「安心」を得るための一つの起点となった講演だったと感じる。

また、第二部はユニット、マリオネットのポルトガルギターとマンドリノットが奏でるアコースティックな音色。ポルトガルはアルファマ地方の歌である「ファド」を中心にポピュラーまで、透明感のあるノスタルジックなサウンドは、レンガ造りの京都文化博物館別館ホールの佇まいと見事にマッチした。

後半は鹿糠ちはるさんのボーカルで昔の厚みを更に増し、例年に無い猛暑な京都の夕べを?C程冷やしてくれた。

ノスタルジックな心地よい話と音楽。充実した時間が緩やかに流れ、まさに癒されたひとときを過ごした。(本田亨史)



ボーカル/鹿糠ちはる

7月

文 月

- ・第20回参議院議員選挙に際し、府内選挙区二之湯智候補者に対し公約書の提出依頼
- ・第20回参議院議員選挙に際し、府内選挙区二之湯智候補者に対し推薦状贈呈
- 11日(日) ・第20回参議院議員選挙投票日
- ” ・おがたまの木コンサート 林本部長以下関係者出席 〈於 京都文化博物館〉
- 12日(月) ・二之湯智参議院議員当選祝い訪問 〈於 二之湯智選挙事務所〉
- 14日(水) ・もうひとつの戦争展準備会 林本部長以下関係者出席 〈於 石清水八幡宮〉
- 21日(水) ・京都府神社庁 関係団体代表者懇話会 林本部長他出席 〈於 京都府神社会館〉
- 25日(日) ・中部神社総代会総会 林本部長出席 〈於 金刀比羅神社会館〉

8月

葉 月

- 3日(火) ・京都府本部財務会 林本部長以下関係者出席 〈於 京都國學院〉
- 4日(水) ・天皇皇后両陛下御奉送迎用国旗小旗作成作業 松吉副幹事長以下関係者奉仕 〈於 京都府神社会館〉
- 18日(水) ・菓を語る女性の会事務局会議 〈於 北野天満宮〉
- 21日(土) ・天皇皇后両陛下御入洛御奉送迎 〈於 京都市内各所〉
- ～23日(月)
- 23日(月) ・日本会議・京都16年度総会記念講演会 竹内副本部長以下関係者出席 〈於 ホテルグランヴィア京都〉
- 25日(水) ・英霊に答える会運営委員会 梶幹事長出席 〈於 京都社会福祉会館〉
- 26日(木) ・平成16年度日本会議近畿ブロック理事会 中嶋事務局長出席 〈於 奈良県護国神社〉
- 29日(日) ・京都府神社庁神職大会 林本部長以下関係者出席 〈於 石清水八幡宮研修センター〉

9月

長 月

- 6日(月) ・京都府本部監査委員会開催 〈於 北野天満宮〉
- ” ・京都府本部役員会及び懇親会開催 〈於 北野天満宮及び豊しげ〉
- ” ・有村治子参議院議員役員会に激励訪問 〈於 北野天満宮〉
- 8日(水) ・京都府神社総代会総支部総会 梶幹事長出席 〈於 山梨県 ホテルふじ〉
- 19日(日) ・第33回交通慰霊祭 林本部長以下関係者参列 〈於 西陣織会館〉
- 25日(土) ・英霊に答える会京都府本部総会 竹内副本部長以下関係者出席 〈於 霊山歴史館〉
- 27日(月) ・第1回定例代議員会開催 〈於 京都府神社会館〉
- 30日(木) ・京都の菓を語る女性の会例会 室田副本部長以下関係者出席 〈於 北野天満宮〉

10月

神無月

- 4日(月) ・京都府神社庁神宮大麻・暦頒布始奉告祭 林本部長参列 〈於 京都府神社庁〉
- 12日(火) ・沖繩京都の塔慰霊参拝旅行 田中顧問・林本部長以下関係者参加 〈於 沖繩県〉
- ～13日(水)
- 14日(木) ・もうひとつの戦争展準備会 林本部長以下関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
- 19日(火) ・時局講演会及び戦没者慰霊祭準備会 林本部長以下関係者出席 〈於 賀茂御祖神社研修道場〉
- 30日(土) ・京都府神社庁京都市上支部神宮大麻暦頒布始奉告祭及び上支部総会 竹内副本部長出席 〈於 平野神社〉

11月

霜 月

- 5日(金) ・台風23号被災対策会議 林本部長以下関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
- 13日(土) ・日本会議・京都研修会参加 〈於 平安神宮記念殿〉
- 17日(水) ・綿貫民輔宮司の神社本庁長老を祝う会 林本部長出席 〈於 赤坂プリンスホテル〉
- 30日(火) ・靖國台湾人訴訟口頭弁論傍聴券獲得活動及び報告会 〈於 大阪高等裁判所及び大阪府神社庁〉

12月

師 走

- 1日(水) ・もうひとつの戦争展開催 〈於 キタオオジタウンSPACEろさんじ〉
- ～6日(月)
- 3日(金) ・戦没者慰霊祭 〈於 賀茂御祖神社研修道場〉
- ” ・京都府本部時局講演会 〈於 賀茂御祖神社研修道場〉
- ” ・清政第37号発行

COLUMN

御製を拝して

沖繩平和祈念堂前

激しかりし戦場の跡眺むれば
平らけき海その果てに見ゆ

平成五年四月、歴代天皇として初めて沖繩に行幸になった際の御製です。平和祈念堂・ひめゆりの塔を訪ねられ、全国植樹祭にご臨席になりました。これより先、ご即位前に五度、その後、平成七年、十六年と沖繩をご訪問になっておいでで、思召しの程が窺われます。

昭和五十年七月十七日、沖繩国際海洋博覧会の開会式にご出席の為、「石をぶつけられてもいい。それでも、地元の人たちの中へ入って行きたい」とのお気持ちで出掛けられた沖繩の地、ひめゆりの塔で過激派が火炎瓶を投げるといふ恐ろしい事件がありました。けれども「多くの尊い犠牲はいつとときの行為や言葉によつてあがなえるものではなく、人々が長い年月をかけてこれを記憶し、一人ひとり深い内省の中にあつて、この地に心を寄せ続けていくことをおいて、考えられませんか」と仰つて、その後の日程を変更無く続けられたのです。そして昭和五十六年には、「日本では忘れてはならない四つのこと」として、「終戦記念日・広島・長崎の原爆の日、六月二十三日の沖繩の戦い終結の日」を挙げられました。毎年この日、両陛下は外出を控え、黙祷を捧げていらつしやると承ります。洵に有り難いことです。(羽)

編集室だより

●日本人らしさに誇りをもて！
神道政治連盟幹事長 衆議院議員
伊吹文明氏のお話を伺って。

我々日本人は太古の昔より大和民族として単一言語を話す同一民族で、農業を中心とした農耕民族であった。人々は共同体を作り、お互いに手を取り合い助け合って生活していた。弱い者は周りの者が支え、収穫を神に捧げ祈り、話す言葉には皇祖神の「言霊(ことだま)」が宿っていると信じていた。日本民族の良さは、あえて自分を抑制し、家族という単位だけでなく地域のソサエティーを大切にしていたこと。そしてその地域の中心には心のよりどころ鎮守の社があった。我々日本人はそのソサエティーの中で素晴らしい歴史・文化・伝統を育ててきた。アメリカの歴史はたかが400年、決して成熟した文化があるとは言えない。アメリカの民主主義はそのまま永い独自の歴史がある日本には当てはまらない、アメリカとの融合や、競走が一番の社会は見直すべきなのである。今こそこの時代の日本に則した自主憲法の制定が望まれる。

日本人はもっと自らが持っている文化、伝統、そして日本人たる個性に誇りを持って、国際社会と付き合っていくべきである。

●ご意見ご感想をお待ちしています。投稿はご氏名ご連絡先を明記の上、FAXか電子メールでお願いします。

宛先/神道政治連盟京都府本部
「清政」編集室
ファックス/075-863-6664
電子メール/
info@kyoto-jinjacho.or.jp



このロゴマークは、わたくしたちの会名である「神道政治連盟」の英訳の頭文字SAS (Shinto Association of Spiritual Leadership) と日本古来の装飾品である勾玉(マガタマ)をデザイン化したものです。

清政 第37号

発行日 平成16年12月3日(金)
発行所 神道政治連盟京都府本部
〒616-0022 京都市西京区
嵐山朝月町68-8
電話 075-863-6677

神道連ホームページを
ぜひご覧ください。
<http://www.sinseiren.org>

編集協力 (株)ハルプロモーション



天皇皇后両陛下 御奉迎活動

去る八月二十一日より二十三日にかけて、天皇皇后両陛下におかせられては、京都国際会館で開催される日本解剖学会に御臨席、またあわせて数日後に行われる後深草天皇七百年式年祭に先立たれたの御陵御親拝のため京都に行幸啓あそばされた。我々神道政治連盟京都府本部も、赤心を捧げて両陛下をお迎えすべく、日本会議・京都及び京都府神道青年会などのメンバーと共に御奉送迎活動を行った。尚、これに先立ち、京都府神社庁において敬婦婦人会をはじめ有志の手により、御奉迎に用いられる多数の小旗が手作りにて奉製された事を特記しておく。

さて、両陛下は二十一日土曜日昼過ぎに京都駅に御到着あそばされた。京都駅には折から多くの観光客が訪れていたため、非常に多くの日の丸が配られ賑々しいお迎えとなった。そして午後には本年七〇〇年祭を迎えられる後深草天皇陵に御参拝あそばされた。ここでも非常に狭い市街地ながら、実に多くの方々が沿道に集まり日の丸の小旗を打ち振ってお迎え申し上げた。

にはお立ち寄りになられず、新館にて展示される「正倉院裂復元模造の十年」展をご覧になられた。これは正倉院宝物の復元模造事業の一環として、皇后陛下が「養蚕される蚕」「小石丸」の絹糸を使用して各種の古代裂を復元したもので、特に皇后陛下の御希望でご訪問が実現したものと拝察される。ここでも、たまたま居合わせた博物館の入館者は、思いがけない両陛下のご訪問に感激し、暑い最中であつたが皆一生懸命日の丸の小旗を手に手に歓迎しておられた。



次いで、二十二日には、京都国立博物館にお出ましになった。折しも京都府神道青年会が主催する特別展覧会「神々の美の世界」が前日より本館にて開催されていたが、まことに残念ながら本館

最終日である二十三日には、上京区にある大聖寺にご参拝。その後一旦御所にお戻りになり、改めて京都駅より東京へお戻りになった。私自身石清水八幡宮奉職後、幾度と無く御奉迎活動に参加させて頂いたが、両陛下をお迎えさせて頂く度に、そのお姿を目の当たりに拝する毎に、新たな感動が湧き起こる思いで一杯である。今後一人でも多くの方々がこの様な機会に恵まれ、大きな感動を覚えて頂きたいものと念願するものである。そのためにも、警備当局の都合もあろうかと思うが、陛下の御訪問先などのご予定はもつと早く、広く広報して頂ければ、さらに多くの方々が沿道に押し寄せ日の丸の波をなびかせ、陛下の慈愛に満ちたお姿を直に拝することにより、自分が日本人族である事を再確認できる瞬間を共有できるであらう。

(堀川博史)

